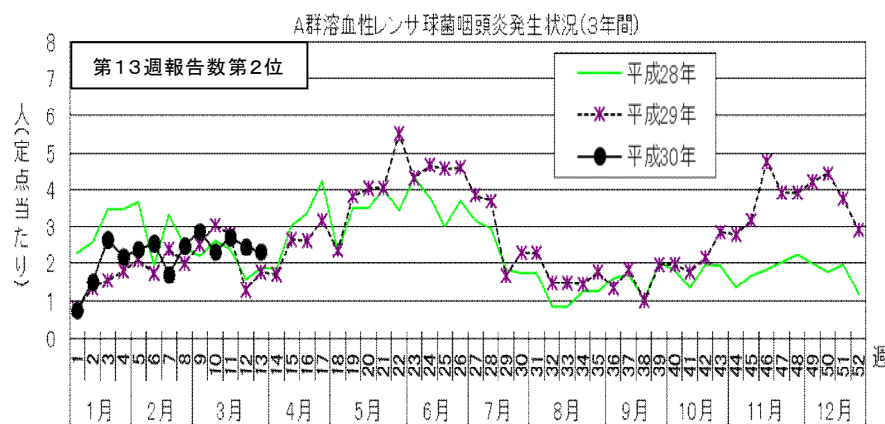
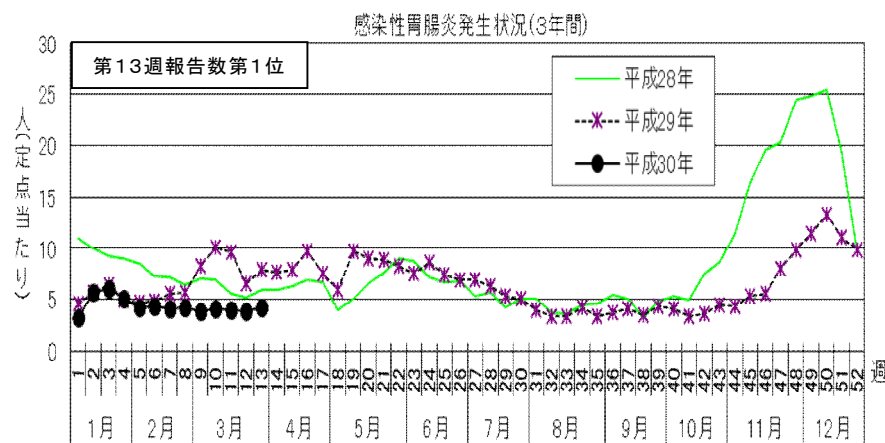


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年3月26日（月）～平成30年4月1日（日）〔平成30年第13週〕の感染症発生状況

第13週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.22人と前週（3.86人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.32人と前週（2.46人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.00人と前週（1.11人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。



今後の動向に注意しましょう！～RSウイルス感染症～

RSウイルス感染症は、乳幼児を中心に秋から冬にかけて流行がみられる疾患です。ここ数年、流行のピークが徐々に早まっており、昨年は夏季に大きな流行がみられました。また、以前は春先の報告はほとんどありませんでしたが、今年は第13週（平成30年3月26日～4月1日）の定点当たり報告数が0.24人と、春先にもかかわらず例年より高いレベルで推移しています。特に小さいお子さんがいるご家庭では今後の流行状況に注意しましょう。

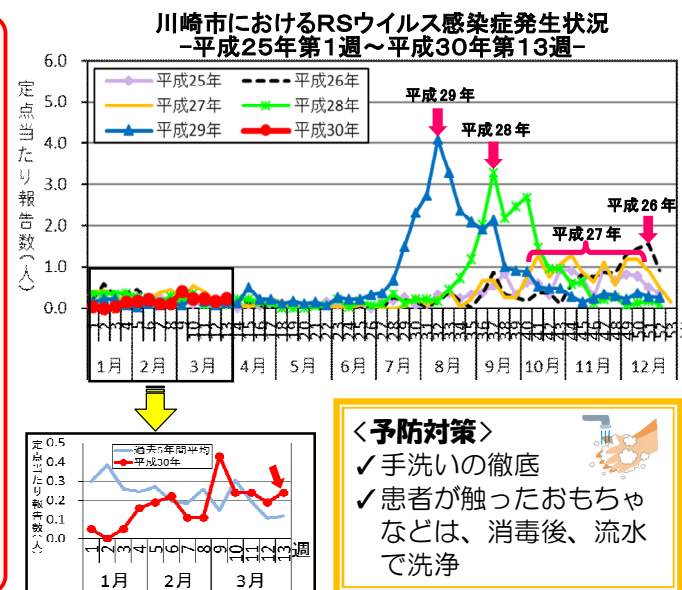
RSウイルス感染症とは？

【感染経路】
 咳や鼻水などによる飛沫・接触感染

【潜伏期間】
 2～8日間（典型的には4～6日間）

【症状】
 発熱・咳・鼻水などの症状が数日続き治癒しますが、初感染した乳児の約30%は咳がひどくなり、喘鳴や呼吸困難などの症状が出て、細気管支炎や肺炎へと進展することがあります。
 ※低出生体重児や心臓や肺に基礎疾患などがある場合には、重症化のリスクが高くなります。

【治療】
 特異的な治療方法はなく対症療法が中心



＜予防対策＞

- ✓ 手洗いの徹底
- ✓ 患者が触ったおもちゃなどは、消毒後、流水で洗浄

